

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】 地域活性化プラン策定支援の状況について

H30 プラン策定数 50プラン

- <桑名市>
 - ・長島町園芸組合：産地の強化
 - ・桑名もち小麦協議会：産地の強化
- <いなべ市>
 - ・株式会社 アグリッド：産地の強化
 - ・JAみえきた いなべキャベツ部会：産地の強化
 - ・若手土地利用型農家の会：産地の強化
- <木曽岬町>
 - ・ロックウール研究会：産地の強化
- <東員町>
 - ・株式会社 シグマサポートシグマファームとういん：産地の強化

- <四日市市>
 - ・安全で安心できる野菜のピクルスづくりプロジェクト：農産物の付加価値化
- <鈴鹿市>
 - ・作業委託で農福連携イン鈴鹿：障がい者雇用
 - ・JA鈴鹿 白ネギ部会：産地の強化
 - ・農業法人 クマダ株式会社：集落営農の強化
- <菟野町>
 - ・株式会社 アクア：障がい者雇用
- <四日市市、鈴鹿市、亀山市>
 - ・鈴鹿花き温室組合：産地の強化
- <四日市市、菟野町>
 - ・JAみえきた 水稲直播研修会：産地の強化
 - ・あんしんファーマーズ：産地の強化
- <四日市市、菟野町、朝日町>
 - ・JAみえきた 三泗地域業務用米みえのゆめ部会：産地の強化
- <鈴鹿市、亀山市>
 - ・株式会社 アグリサービス鈴鹿：産地の強化

- <伊賀市>
 - ・種生区活性化計画推進委員会：集客交流
 - ・農事組合法人 百姓工房伊賀の大地：農産物の高付加価値化
 - ・JAいがほくぶ ぶどう部会：産地の強化
- <名張市>
 - ・赤目地区稲作品質向上委員会：産地の強化
 - ・黒田地区環境保全会：地域コミュニティの維持

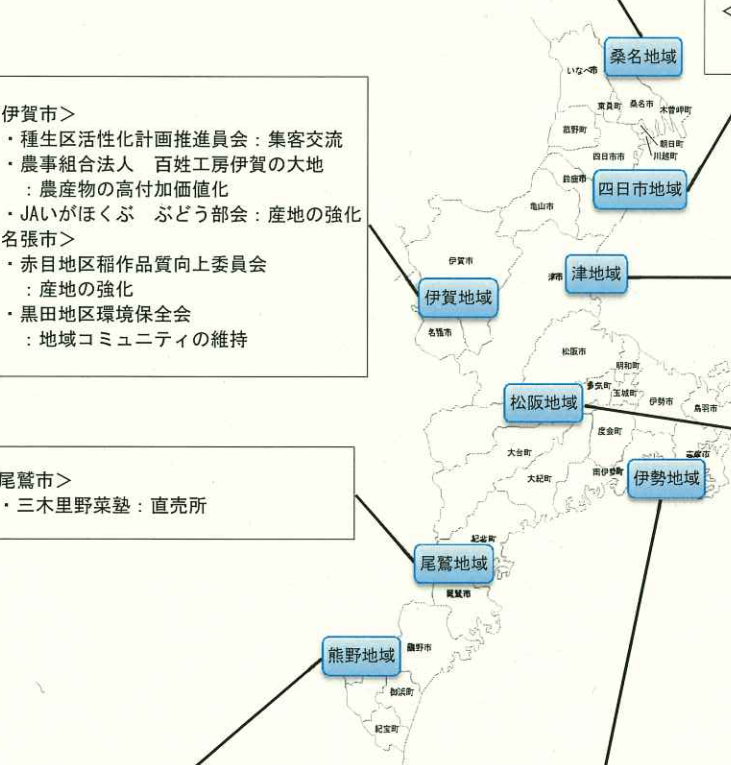
- <津市>
 - ・グリーンファームあべ：集落営農の強化
 - ・芸濃いちご部会：産地の強化
 - ・榊原未来会議：集客交流
 - ・農事組合法人 二子営農組合：集落営農の強化
 - ・一志町の農業を守る会：産地の強化
 - ・其村農事組合：産地の強化
 - ・特定非営利活動法人 コルチカムの里：集客交流
 - ・JA三重中央 ブロッコリー部会：産地の強化

- <尾鷲市>
 - ・三木里野菜塾：直売所

- <松阪市>
 - ・JA松阪 水田農業経営者研究会：産地の強化
 - ・波瀬むらづくり協議会：新産地づくり
 - ・笠松地域農業振興協議会：産地の強化
- <多気町>
 - ・佐奈・里山プロジェクト：集客交流
 - ・たき土力の会：産地の強化
- <大台町>
 - ・奥伊勢白ネギ栽培研究会：新産地づくり
 - ・奥伊勢ゆず生産部会：産地の強化
 - ・弥起井倶楽部：新産地づくり
- <津市、松阪市>
 - ・JA一志東部 水田農業経営者協議会：産地の強化
- <津市、鈴鹿市、松阪市、多気町、伊勢市、玉城町、伊賀市、紀北町>
 - ・三重緑創会：産地の強化

- <御浜町>
 - ・株式会社 かきうち農園：産地の強化
 - ・有限会社 すぎもと農園：産地の強化

- <伊勢市>
 - ・JA伊勢 洋花部会：産地の強化
- <志摩市>
 - ・南勢志摩さとうきび振興企業組合：新産地づくり
 - ・JA鳥羽志摩 紅茶生産者グループ：産地の強化
- <玉城町>
 - ・勝田大地の絆会：集落営農の強化
 - ・農事組合法人 茶屋：集落営農の強化
- <伊勢市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町>
 - ・JA伊勢 キャベツ部会：新産地づくり
- <鳥羽市、志摩市>
 - ・JA鳥羽志摩 inショップ部会：産地の強化



地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
桑名	桑名市	長島町園芸組合	長島トマト産地の振興	<p>本地域では、水稻や麦、大豆の栽培とともに、トマトや花き、観葉植物などの施設園芸、なばななどの露地野菜の栽培も行っている。</p> <p>また、昭和30年代からトマト栽培を始め、昭和60年代には全国で最も早く「桃太郎トマト」や「ハウス桃太郎」の栽培を始めた伝統ある産地である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○収量の増加 ○高品質化 ○販売強化 ○選果場の維持 ○新規就農者および研修生の確保 	<p>品種検討会・栽培研修会・販売会議の開催</p> <p>単収向上および出荷量維持 15.2t/10a →16.0t/10a、1,027t→1,200t</p> <p>独自GAPへの取組</p> <p>販売単価の向上 153t→480t</p> <p>消費者ニーズ・出荷形態・出荷先の検討</p> <p>選果場の維持・更新</p> <p>空きハウスの利活用</p> <p>研修生マニュアルの更新および就農サポート</p>	<p>発展</p> <p>H30.9</p>
桑名	桑名市	桑名もち小麦協議会	もちもちとした食感のもち小麦を桑名市から発信	<p>本地域は、工業都市に挟まれるように都市化したため、農家の兼業化が進んでいる。安定兼業農家が比較的多いものの、世代交代が進み、近年では土地利用型農業の担い手不足が深刻な課題となっている。</p> <p>なお、もち小麦栽培については、現状1戸の担い手農家により栽培されており、主産地は七和、城南、上之輪地区等各地域に点在している状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市広報誌や情報ネットワークなどを利用した商品PR ○地域内外の加工業者・消費者との交流 ○新商品の開発 ○販路拡大 ○収量・品質の向上および生産コストの削減 	<p>役員会の開催 6回/年</p> <p>地区内外での商品PR活動 6回/年</p> <p>加工業者・消費者との交流会 5回/年</p> <p>新商品の開発</p> <p>栽培暦の作成</p> <p>新規栽培農家の確保 1～2戸</p>	<p>H31.3</p>
桑名	木曾岬町	ロックウール研究会	次世代トマト経営を担うモデル経営体の育成	<p>本地域では、土地利用型担い手農家やトマト、ナス、観葉植物などの施設園芸が積極的に進められている。</p> <p>特にトマトについては、一時出荷量が減少傾向にあったものの、近年高度環境制御施設の導入や栽培方式の転換を図り、増加に転じていることから、県内シェア約40%を占めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次世代施設園芸技術の研究・技術取得 ○生産性の向上および経営の発展 	<p>定期的な栽培養液の分析</p> <p>会員間のほ場見学</p> <p>情報収集および研修会の開催</p> <p>短期間でのPDCA実践による理想的な生育状態の維持、高単収</p>	<p>H31.3</p>

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	東員町	株式会社 シグマサポート シグマファームとういん	就労継続支援A型事業所シグマファームとういんにおけるGAPの実践と第三者認証取得への取組み	本地域では、平坦な水田地帯を利用した土地利用型農業が盛んに行われているが、畑地を利用する品目では一部で小規模に行われているのみであり、就農者数が減少している。 そのような中、農福連携に取り組む障がい者就農施設である本事業所では、年間を通じて10品目以上の野菜を栽培している。	○国際水準GAPの認証取得 ○農場ルールの定着 ○人材育成	国際水準GAPの認証取得 1品目 整理整頓の推進およびリスク評価の実施 農場ルールの定着 人材育成	発展 H31.3
桑名	いなべ市	株式会社 アグリッド	いなべ市における新たな『次世代施設園芸モデル』の確立	本地域は、県内でも冬の寒さが厳しい地域であるが、基盤整備により概ね集積された効率の良い農地が広がっており、周囲に障害物がなく、日照量が安定して確保できることから、太陽光利用型施設に向いているという利点がある。 しかし、他地域、同様に農業者の高齢化や就農者数の減少などにより、人材不足が深刻な問題となっている。	○大規模施設栽培に必要な労働力の安定的な確保 ○高度な栽培管理技術・ロボットの活用による高品質・高収量なトマトの生産 ○契約販売の推進および販売価格の維持	地元雇用 100名以上 ミニトマト収量 24t/10a 大玉トマト 30t/10a 契約販売率 50%	H31.3
桑名	いなべ市	JAみえきた いなべキャベツ部会	実需者から「信頼される産地」としての確固たる地位を築こう	本地域は、土地利用型農業が盛んであり、ブロックローテーションによる水稲や麦、大豆などが栽培されている。また、露地野菜では秋冬キャベツ、施設野菜ではイチゴやトマトなどが栽培されている。 大規模な土地利用農家等が、冬季の余剰労働力の有効活用を図って、キャベツ等露地野菜を栽培しているが、水稲との作業競合や販売価格の不安定などにより、生産数や栽培面積が拡大できていない。また、鳥獣害対策も実施しているが、侵入防止策の維持管理が不十分なことから、防ぎきれない状況である。	○新規栽培者の確保 ○栽培面積の拡大 ○産地出荷量の増大 ○情報交換および作業の受委託、機械の賃借を通じた相互支援	新規栽培者の確保・定着 栽培研修会への参加および現地巡回 現地実証試験による最適品種の選定 および栽培技術の確立 単収の増加 4t/10a 省力化技術の導入および作業の受委託、機械の賃借による作業の効率化	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	いなべ市	若手土地利用型農家の会	若手農家の相互研鑽による経営発展	本地域は、水稲や麦、大豆を基幹に、飼料用米や露地キャベツなども栽培されている水田地帯である。担い手農家は、利用権設定や作業受委託により規模拡大を図っているものの、近年農家の高齢化や収量の減少などが問題となっていることから、栽培技術や経営面のフォローが必要な状況である。	○水稲や麦、大豆の栽培意欲・技術の向上および収量・品質の向上 ○業務用米等多様な米づくりの導入による経営発展	栽培技術の向上・経営感覚の醸成に資する研修会の開催 地域内外での先進地視察および相互交流	H31.3
四日市	四日市市	安全で安心できる野菜のピクルスづくりプロジェクト	栽培期間中化学合成農薬・化学肥料を使用しない野菜を用いたピクルスづくり	都市郊外の特性を活かした農業が営まれており、米を主体に転作作物として小麦・大豆、伝統と立地条件に恵まれた茶・白菜・パレシヨの他、キャベツ・大根・カブを中心にした露地野菜、花き・メロン・トマト・イチゴ・ネギなどの軟弱野菜、梨・ミカンなどの果樹、肉牛・養豚などの畜産等多様な農畜産物の生産が行われているものの、知名度が低いことが課題となっている。	○安全・安心な野菜・ピクルスづくり ○新たな商品開発 ○食の豊かさPR	化学肥料・農薬不使用の野菜づくり ピクルスの商品開発・レシピ作成 販路拡大に向けた商談会・交流会への参加 PR媒体の作成 食育活動の実施	H30.10
四日市	四日市市、鈴鹿市、亀山市	鈴鹿花き温室組合	実需者交流の機会を生かした消費促進を鈴鹿の地から	本組合は、組合員相互の技術研鑽および地域での花の普及を目的として設立され、以降は地元大型ショッピングセンターでの品評会・即売会の開催や、商談会への出展、視察研修による生産技術・商品企画力の向上に向けた取組などを行ってきた。 しかし、近年若年層・男性の購入量減少や客層の固定化・高齢化、新商品・新品種への変遷が早く、実需者ニーズが変わりやすいことに加えて、異常気象による生理障害や病害虫の発生、運送・生産費の上昇により、花き生産者の経営を圧迫している。	○商品提案および意見収集 ○売れる商品提案のサイクルづくり ○花育活動の実施 ○経営の安定化	商品提案および意見収集 1品以上/年、計9品以上 視察や市場展示会、商談会を通じた情報収集および他組織との交流 1回以上/年 研修会の開催 品評会・即売会の開催 4回/年 園芸教室の開催 2回/年 定例会での協議 7回/年	発展 H31.2

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
四日市	四日市市、菰野町、朝日町	JAみえきた 三泗地域業務用米みえのゆめ部会	三泗地域における業務用米みえのゆめの栽培実証、普及拡大	本地域では水田を活用して、水稲をはじめ、集団での麦・大豆作が展開されているとともに、施設園芸や露地野菜も広く栽培されている。 その中で、年々増加する担い手への農地管理委託に伴い、経営面積拡大対策として、作期分散や大型機械の導入、雇用拡大などを図っているが、基幹作物である水稲は安定多収生産が必要不可欠となっている。	○安定多収生産の実現および経営改善 ○実需者ニーズへの対応および普及拡大 ○栽培技術の情報共有	部会の設立 生産者向け研修会の開催 栽培実証および巡回指導 生産者数・栽培面積の増加 30人、60ha	H31.3
四日市	四日市市、菰野町	JAみえきた 水稲直播研修会	JAみえきた(三泗)管内における水稲直播の栽培実証、普及拡大	本地域では水田を活用して、水稲をはじめ、集団での麦・大豆作が展開されているとともに、施設園芸や露地野菜も広く栽培されている。 その中で、年々増加する担い手への農地管理委託に伴い、経営面積拡大対策として、作期分散や大型機械の導入、雇用拡大などを図っているが、省力低コストな新技術の導入も課題となっている。	○水稲の直播栽培の試行・実証および普及拡大 ○地域内外の研究成果・現地情報収集に向けた研修会・視察の実施	直播栽培の試行・実証 直播栽培面積の増加 2ha増 研修会などでの情報共有	H31.3
四日市	菰野町	株式会社 アクア	田光地区での水耕による葉物野菜の生産振興と農福連携の推進	本地域では、古くから主穀である米・麦・大豆を中心とした二年三作のブロックローテーション体系が確立され、地域ぐるみで効率的な水田の活用が行われてきた。 しかし、商業の発展や交通網の発達による都市化とともに、土地開発や道路建設が進み、農地面積が減少しつつある他、近年深刻化する獣害への対応、担い手の経営面積拡大に伴う労働力確保が課題となっている。	○JGAPの継続的な実践 ○低カリウム野菜の生産安定化および販路拡大・収益向上 ○障がい者の就労支援	JGAPの継続的な実践 低カリウム野菜生産割合の増加 30%→40% 障がい者の就労支援	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	四日市市、菰野町	あんしんファーマーズ	栽培期間中、農薬・化学肥料不使用による大豆の生産拡大	本地域では、古くから米・麦・大豆の二年三作によるブロックローテーション体系が定着しているとともに、その中でも大豆は県内有数の産地であり、早くから実需との結びつきによる商品化が実現している。 また、近年消費者の安全志向により、本地域で生産される大豆が求められており、高付加価値を維持するとともに、生産量の確保が急務となっている。	○生産者が安心して大豆栽培に取り組める環境づくり ○実需者との連携・交流活動の実施	生産者数・栽培面積の維持 生産量の増加 生産者向け研修会の開催 巡回活動の実施 実需者との意見交換会の開催	H31.3
四日市	鈴鹿市	作業委託で農福連携イン鈴鹿	作業委託で農福連携イン鈴鹿	当地域の植木は、生産から流通・販売までを一貫して行う産地体制が生まれ、主に公共緑化樹として、都市・道路・工場などの需要に対応して発展してきており、若手の後継者も育ってきている。 そのような中、障がい者の工賃向上を目的として、本会では作業委託に積極的な福祉事業所と農福連携を行っている。	○障がい者の工賃向上 ○ホームページでの植木・グランドカバーの販売 ○農作業受委託のコーディネート・普及	作業受託日数 28日/年 ホームページでの植木・グランドカバーの販売 農作業受委託のコーディネート・普及	H31.3
四日市	鈴鹿市、亀山市	株式会社 アグリサービス鈴鹿	鈴鹿地区の農地の維持と野菜の産地化	農業生産額や農業就業人口、経営面積など県下トップクラスを誇る地区であり、水田や茶、植木、花き、野菜、果樹、畜産等多様な品目を有する総合産地を形成している。 しかし、近年本地区の農業生産を支える茶や花木の需要・価格の低迷により、縮小もしくは離農する経営者も出てきており、併せて耕作放棄地化が非常に大きな課題となっている。	○利用権設定による生産規模の拡大 ○栽培管理の省力化および労力の軽減 ○次世代を担う農業者の育成に向けた取組 ○学校給食への納品および地産地消	生産規模の拡大 野菜360a・138t、水稲1,950a・1,657俵、加工米1,050a・892俵 大型機械・作業機械の導入 インターンシップの受入れ 農業体験の実施 学校給食への納品 直売所への出荷	H30.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
四日市	鈴鹿市	JA鈴鹿 白ネギ部会	鈴鹿地区の白ネギ産地の拡大	<p>農業生産額や農業就業人口、経営面積など県下トップクラスを誇る地区であり、水田や茶、植木、花き、野菜、果樹、畜産等多様な品目を有する総合産地を形成している。</p> <p>しかし、近年本地区の農業生産を支える茶や花木の需要・価格の低迷により、縮小もしくは離農する経営者も出てきており、併せて耕作放棄地化が非常に大きな課題となっている。</p> <p>このような状況の中、新たな品目の導入による経営の安定化や農地の維持を図るために、白ネギの新たな産地化を目指し始めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生産面積の拡大および農地の維持 ○生産安定に向けた栽培技術の確立 ○販売高の向上 	<p>産地面積の拡大および農家戸数の確保 20ha、60戸</p> <p>新規栽培者の確保</p> <p>栽培研修会の開催 4回程度/年</p> <p>機械化体系の確立 2回程度/年</p> <p>実証ほの設置 2箇所/年</p> <p>ほ場巡回研修会の実施および目揃会による規格統一 各2回程度/年</p> <p>販路拡大</p> <p>GAPの導入</p> <p>研修会・先進視察の実施 3回程度/年</p>	発展 H31.3
四日市	鈴鹿市	農業法人 クマダ株式会社	「地域農業を支える主体として、将来にわたって地域・消費者から信頼される経営の実践」	<p>本法人は、農作業の受託・利用調整組織として、水稲・小麦・大豆の栽培やもち・あられ等加工品の生産を行い、本地区の農業に貢献してきた。</p> <p>そのような中、従業員のスキルアップや農業機械・施設などの計画的な更新、獣害対策、加工品の安定化等が課題となってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○GAPの実践による人材育成 ○継続した施設整備の実施 ○部門別収益向上への取組み ○地域との連携強化・活性化 	<p>農業生産工程管理の構築</p> <p>労働安全確保および福利厚生</p> <p>ライスセンター改修工事による生産性の改善</p> <p>WCS栽培での高品質なサイレージ生産の構築</p> <p>水田直播栽培の構築</p> <p>加工販売での生産効率向上およびHACCP導入への取組</p> <p>地区イベントへの参加</p>	発展 H31.3
津	津市	グリーンファームあべ	安部地域農業活性化プラン	<p>本地域は、古くから水田に囲まれた農村集落の形態を保持しており、農地の約30haのうち、20haを集落外の担い手に委託し、水稲や小麦の作付けを行ってきた。残りの10haは、個々の小規模農家が耕作を行ってきたが、近年の高齢化や採算性の悪化などから、耕作放棄地の発生が懸念されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水稲・飼料用米の作付け ○経営規模に応じた作業機械導入の検討 ○営農組合の若返り・世代交代に向けた取組 ○営農組合の法人化 	<p>水稲・飼料用米の作付け</p> <p>経営規模に応じた作業機械導入の検討</p> <p>作業体制の確立</p> <p>採算性・効率性の向上</p> <p>後継者の確保営農組合の法人化</p>	H30.12

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	芸濃いちご部会	芸濃いちご部会によるイチゴの振興	<p>本地域では米を主体に、その他キャベツやイチゴ、伝統野菜のずいきなどの作物の振興が図られてきたが、高齢化や後継者不足により、栽培面積が減少傾向にある。</p> <p>なお、イチゴの施設栽培は、昭和43年頃に転作作物として導入したことをきっかけに、現在では本部会によるイチゴの振興とブランド化に向けた取組を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生産性向上に向けた課題解決への取組 ○生産物の共同販売および資材の共同購入 ○栽培研修会・出荷販売会議の開催 ○研修生の受入れ 	<p>病害虫対策実証活動・収量増に向けた実証活動の実施、品質改善方策の検討 4回以上</p> <p>生産物の共同販売および資材の共同購入</p> <p>栽培研修会・出荷販売会議の開催 出荷量23,786kg→25,000kg</p> <p>新規部会員数の確保 2名以上</p>	H30.12
津	津市	榊原未来会議	榊原の温泉、観光資源と農村資源を結びつけた地域活性化	<p>非常に古い歴史を誇るいで湯の榊原温泉があり、温泉旅館への観光客で活気のある地域であったが、最盛期に比べて入込客数が約1/3まで減少している。</p> <p>また農業については、水稲が中心に各種野菜も栽培されているが、農業従事者の高齢化や担い手の不足、獣害の発生等営農の継続が困難な条件が多いことから、荒廃農地・遊休農地の増加が懸念されており、地域全体の活力低下が課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○温泉の効能を活かしたヘルスツーリズムの展開 ○農業・森林・歴史・史跡などを活用したニューツーリズムの展開 ○ESD・SDGs体験活動の提供 ○訪問人口の増加 	<p>アクティビティプログラムによる集客 100人</p> <p>宿泊を伴う自然体験プログラムの実施</p> <p>小学校での地区学習授業への参加</p> <p>森林を活用したMTBトレイルツアーの実施</p> <p>HP・SNSを活用したプログラムのPR</p>	H31.1
津	津市	農事組合法人 二子営農組合	担い手としての経営強化による地域の農地保全・活性化	<p>本地域は、津市有数の田園地帯であり、水稲を中心に小麦や大豆などが栽培されている。</p> <p>しかし、小規模農家で高齢化の進展および若者の農業離れによる後継者不足、また農業機械の経費が高み、自己完結型の小規模経営では採算が取れなくなっている状況であることから、認定農業者への集積が比較的進んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小麦の反収の向上 ○営農組合の組織充実 ○JGAP認証取得 	<p>新品種の導入および新技術の導入 反収300kg/10a</p> <p>PDCAサイクルによるきめ細やかな農作業管理</p> <p>JGAP認証取得</p>	<p>発展</p> <p>H31.2</p>

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
津	津市	一志町の農業を守る会	「一志町の農業を守る会」活性化プラン	<p>本地域の農業は大半が水田であり、ブランド米「一志米」の産地の重要な一角を占めている他、キャベツやブロッコリーなどの野菜栽培も盛んに行われている。</p> <p>一方で、農業者の高齢化や担い手不足、獣害、耕作放棄地の発生により、農業者自らも農業に対する意欲が薄れかねない状況である。</p> <p>これに歯止めをかけ、地域の基幹産業である農業の維持発展のため、一志米のさらなるブランド化や仲間づくり、後継者の確保を推進していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一志米のさらなるブランド化のための生産対策（土づくり、水・肥培管理、害虫防除、適期刈取り） ○一志米産地強化のための仲間づくり 	<p>実証ほの設置・巡回・坪刈り 収量調査・食味調査 2回 研修会・視察会の開催 総会農業賞の表彰 「一志の農業を守る会」の活動</p>	H31.3
津	津市	其村農事組合	其村地域の水田農業の活性化	<p>本組合は、稲・麦・大豆・野菜作における作業の総合受委託、ならびに経営受委託をもって、農作業の省力化を図るとともに生産性の向上を期することを目的として発足した。</p> <p>しかし、農業従事者の高齢化や担い手の不足、獣害の発生等営農の継続が困難な条件が多いことから、荒廃農地・遊休農地の増加が懸念されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水稲・小麦・大豆の安定生産 ○地域全体の土地利用方法の検討 ○オペレーターの農作業時間の確保 ○集落内外住民との交流促進 	<p>水稲の収量・品質向上 8俵/10a、1等50%、飼料用米10俵/10a 小麦の安定生産 480kg/10a 大豆の反収向上 平均100kg/10a 獣害対策の実施 1回以上/年 オペレーターが安定して従事できる作業の確保 イベントの開催 3回/年</p>	H31.3
津	津市	特定非営利活動法人 コルチカムの里	伊勢本街道奥津宿を起点とした美杉の農山村の活性化	<p>本地域の農地の大半は水田であり、山間部のため小区画の田が多くなっているが、美杉町のブランド米「美杉清流米」をはじめ、しいたけや茶、マコモタケ、野菜などが栽培されている。</p> <p>しかし、人口の減少や高齢化などによる担い手不足や野生鳥獣による農作物被害の発生、耕作放棄地の増加が懸念されており、また地域全体の活力低下も課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○農山村や森林、伊勢本街道宿場の面影を残した景観等を活かした活気ある地域の創生 	<p>農林漁業体験民泊の開業 喫茶コルチカムの里の営業開始 アサギマダラが訪れる花畑の整備 各施設運営の充実 地域への訪問客増加に向けた取組 教育施設の整備に向けた検討</p>	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	JA三重中央 ブロッコリー部会	「ブロッコリーの産地振興による地域活性化」	<p>本地域の営農は、水田での水稲、小麦、大豆の土地利用型大規模経営や集落営農組織が中心となっているが、それら経営体の水田高度利用によるキャベツ、ブロッコリー等露地野菜の栽培も盛んに行われている。なお、ブロッコリーについても特定野菜産地として、県下一の栽培面積を誇っている。</p> <p>一方で、高齢化による農業従事者の減少と獣害の発生による作付け意欲の減退により、耕作放棄地が増えつつある。さらに、農産物価格の低迷や激しい気象変動による生産量の不安定も懸念されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○GAPのグレードアップ ○土壌分析診断に基づく適正施肥の拡大 ○需要調査および新品種の導入 ○品質保持の出荷資材の導入 ○コンテナ出荷による資材コストの削減 	<p>GAPへの取組</p> <p>堆肥施用率の向上 22%→70%以上</p> <p>土壌分析実施率の向上 12%→50%</p> <p>栽培面積の増加 15.8ha→16.5ha</p> <p>販売額の増加</p> <p>コンテナ販売率・契約販売率 10%</p> <p>出荷量の増加 11,959cs→25,000cs</p>	<p>発展</p> <p>H31.3</p>
松阪	大台町	奥伊勢白ネギ栽培研究会	「ふゆわらべ」を活用した白ネギ産地化プロジェクト	<p>本地域は、米や茶の生産が盛んであり、近年では耕作放棄地対策の一環としてゆずやエゴマの栽培が盛んになってきているが、露地野菜については産地となるものがなく、農業所得で生計を立てることが困難な状況である。</p> <p>こうした中で、白ネギ等高収益作物を導入することにより、収益向上に繋げ、生産意欲の向上や優良農地の確保・利用が期待できるものと考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生産組織の編成 ○白ネギ栽培技術の確立・販売促進 ○6次産業化 	<p>生産部会の編成 1組織</p> <p>土づくり・定植・土寄せ・追肥研修会の開催 各1回/年</p> <p>先進地視察 1回</p> <p>栽培基準の制定</p> <p>みえの安心食材表示制度の取得</p> <p>消費者・実需者ニーズの調査 3回</p> <p>6次産業化に向けた打合せ 3回</p>	<p>H30.6</p>
松阪	多気町	佐奈・里山プロジェクト	里山の整備と保全をとおした楽しくおいしい地域づくり	<p>本地域は、多気ミカンの主産地であり、4月上旬まで貯蔵できる日持ちが良いミカンを特色にしている。</p> <p>しかし、ミカンの消費量の低下や価格低迷により、1970年代にはピークだったミカン園も現在は減少し、本地域でも放任園が増加している。また、高齢化や後継者不足により管理されなくなった農地や獣害により耕作できなくなった農地、山林の荒廃が見られるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○里山に集い、里山の恵みを享受しながら守り育てる活動の実施 （里山の整備、農産物の加工など） 	<p>竹林の伐採</p> <p>獣害柵・しいたけ原木設置場所の整備</p> <p>イベントの実施（みそづくり、わらびやタケノコとり・ビン詰加工、摘果ジュースづくり、しいたけの菌打ち）各種毎年</p>	<p>H31.2</p>

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
松阪	多気町	たき土力の会	有機農産物の生産拡大	<p>本地域の農業は、平成2年頃より工業団地の立地をきっかけとして兼業化が進み、兼業農家による安定した農業が続いてきたが、現在では高齢化や後継者不足により、管理されなくなった農地や獣害により耕作できなくなった農地の発生が見られるようになった。このような状況の中、大手事業者の進出計画もあり、地元における有機農業や有機農産物の生産振興の機運が高まってきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○有機農産物の導入 ○有機農業に係る技術力の向上 ○新たに有機農業に取り組む生産者の確保・育成 ○消費者・実需者に向けた啓発活動 	<p>地域に合った品目・品種の検討、民間事業者と連携した作物導入 1品/年 栽培ほ場設置、実践研修会の開催、堆肥生産、土壌診断 3回/年 新規会員の受入れ 1名/年 試食会・商談会の開催 2回/年</p>	H30.11
松阪	松阪市	JA松阪 水田農業経営者研究会	JA松阪水田農業経営者研究会地域活性化プラン	<p>本地域の平坦部においては、主穀中心の農業が盛んであり、ほ場整備が完了した農地では、集落営農組織等が中心となって水稲・小麦・大豆のブロックローテーションに取り組み、ほぼ2年3作の水田農業が展開されている。</p> <p>しかし、主食用米の需要が減少する中、麦の作付面積は最大値に近くなっており、麦後大豆作と合わせ、知力低下と病害虫被害による品質低下および収量減が大きな問題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水稲栽培技術・品質の向上 ○小麦・大豆の高品質・安定化 ○地域の将来像（経営発展、地域農業の維持等） 	<p>定期的役員会の開催 3回/年 先進地視察等 2回/年 農業政策・栽培技術研修会等の開催複数回/年</p>	H31.2
松阪	津市、松阪市	JA一志東部 水田農業経営者協議会	JA一志東部水田農業経営者協議会地域活性化プラン	<p>本地域では全域でコシヒカリが作付けされているが、近年夏季登熟期間の高温障害による白未熟粒の発生による品質低下が問題となっている。</p> <p>また、小麦・大豆については、地力低下と病害虫被害による品質低下や収量減が大きな問題となっている。</p> <p>その他、草刈り作業が重労働となっていることや、獣害被害の影響も課題に挙げられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水稲・小麦・大豆の栽培技術の向上 ○景観形成 	<p>ほ場巡回（土づくり、施肥管理、病害虫・雑草防除等） 栽培研修会の開催 3回/年 GAP・法人化等研修会の開催 ひまわり栽培の支援</p>	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
松阪	松阪市	波瀬むらづくり協議会	遊休農地再生・クレソン栽培・月出米生産・大銀杏茸の栽培を通じた地域の活性化	本協議会を中心に、これまで遊休農地の再生とクレソン栽培を通じた農業所得向上を目標として、クレソンの販売流通や6次産業化に関する取組を行ってきた。その結果、一定の成果は得られているが、今後高齢化や遊休農地の拡大がさらに進む中で、栽培面積拡大に対応できる体制づくりや安定生産に向けた課題を解決していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○遊休農地の再生・活用 ○クレソン・野菜・水稻・大銀杏茸の栽培面積拡大 ○クレソン・大銀杏茸の知名度向上 ○体験学習および食育 	水稻栽培面積の維持・拡大 1.7ha→2.0ha クレソンの県外栽培事例収集・先進地視察 1回/年 大銀杏茸の栽培技術研修会の開催 1回以上/年 大銀杏茸栽培技術の開発・検討、情報収集(実証ほの設置) 大銀杏茸の販売強化に向けた取組 1回以上/年 HPを活用した大銀杏茸の情報発信 2回/年	発展 H31.3
松阪	松阪市	笠松地域農業振興協議会	笠松地域農業振興協議会地域活性化プラン	本地区には営農組合があり、耕種農家を中心とした農地の利用調整が行われているが、排水不良田など麦・大豆を組み込んだ作付け体系が取りにくいところがあるため、地域の養鶏農家と連合し、配合飼料への飼料用米配合割合の増加および飼料用米作付面積の拡大にも取り組んでいる。 今後、飼育羽数増加により、飼料用米の安定供給と利用拡大および鶏糞利用が課題となり、計画的な構築連携体制の確立が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ○自給飼料利用の拡大 ○鶏糞堆肥の利用促進 ○消費者の需要に合った生産物の供給 	飼料用米作付面積の拡大 60ha 飼料用米給与割合の向上 20% 鶏糞堆肥散布面積の拡大および散布機械の導入 60ha 「こめ育ちさくらたまご」のPR・ブランド化	H31.3
松阪	大台町	奥伊勢ゆず生産部会	柚子の産地化で地域農業と農地を守る	本地域は県内でも有数の茶産地であるが、農業経営環境の悪化から、担い手・後継者不足が著しく、農業就労者の高齢化と耕作放棄地の増加を招いている。 このことから、耕作放棄地対策として町民および民間事業所による柚子の苗木配布を4年以上前から行っている。 今後、本格的な加工生産に向けて、原料の安定した品質と収量の確保、気象・土壌条件に応じた栽培技術の普及を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○柚子生産者組織の結成 ○品質規格基準の確立 ○栽培者の確保 	生産者組織の結成 現地栽培状況調査 栽培技術研修の開催 毎年 先進地視察 出荷量の確保 10t→30t、枯死率20%以下 出荷基準・検品要領の制定 新規生産者の確保 2名/年	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
松阪	大台町	弥起井倶楽部	守ろう農地！目指そう野菜産地！弥起井型集落営農	<p>本地区は、町内でも比較的平地が多く、集落内およびその周辺に農地が混在しているが、他地区と同様に担い手の高齢化が進んでおり、遊休農地が増加している。</p> <p>このことから、農地を荒らさないことを目的に、除草等の保全管理の他、トウモロコシをはじめとする野菜栽培を行い、子どもたちの収穫体験や集落内の無人市、道の駅で販売を行ってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の農地保全と営農に関する合意形成 ○新たな野菜の産地化 ○積極的な販売活動の実践 	<p>集落における話し合いの実施 5回</p> <p>野菜産地事例の収集 1→3回</p> <p>実証ほの設置(新規品目の導入) 1→2箇所</p> <p>栽培技術研修会の開催 1→3回</p> <p>販売強化に向けた取組 6回</p> <p>定期的な情報発信 1回/四半期</p>	<p>発展</p> <p>H31.3</p>
松阪	津市、伊勢市、松阪市、鈴鹿市、伊賀市、多気町、玉城町、紀北町	三重緑創会	「個性と組織力を生かした経営発展で、新時代・令和を切り拓く！」	<p>本会は、観葉・鉢花・苗物等多様な品目の花き花木生産者から成る組織であり、付加価値が高くオリジナリティーのある商品を作る生産者が多いことから、他にはない個性的な商品を求める市場関係者から一定の評価を受けている。</p> <p>その一方で、生産面においては生産コストの上昇による経営圧迫や運輸業界の運転手不足、生産者の減少、消費面においては市場単価の下降や流行の変遷によるニーズの把握困難などが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○物流拠点の集約化による出荷体制の強化 ○栽培技術・経営管理力のさらなる向上 ○円滑な事業継承の推進 ○消費者ニーズの把握 ○個性が輝く売れる商品づくり ○戦略的なプロモーション活動 ○花育活動による花のファンづくり 	<p>新たな物流拠点の構築 1箇所以上</p> <p>先進地視察または研修会の開催 1回以上/年</p> <p>市場や実需者との交流機会の創出 2回以上/年</p> <p>イベントの開催およびSNS等による情報発信</p> <p>売上高の増加</p> <p>花育体験教室の開催 3回以上/年</p>	<p>R元.5</p>
伊勢	玉城町	勝田大地の絆会	勝田区の農地と絆を守る取り組み	<p>本地区の農業は、恵まれた自然条件の中で、水稻を中心としたさまざまな品目が生産されている。なお、耕地面積の約8割は水田であり、基盤整備や大型機械の導入がいち早く進んでいるとともに、温暖な気候のため野菜や果樹、イチゴの生産も盛んである。</p> <p>しかし、近年施設の老朽化や農業者の高齢化、担い手不足により、耕作放棄地の増加が懸念されている他、若者の地域や農業への関心が薄れていることも問題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地区住民の絆を深める ○農地の保全 	<p>イベントの開催 1回/年</p> <p>広報誌の発行 2回/年</p> <p>農地の保全活動 3回以上/年</p>	<p>H30.7</p>

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
伊勢	伊勢市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町	JA伊勢 キャベツ部会	省力栽培による伊勢の業務加工向けキャベツ振興	<p>本地域では、水稻中心の営農を続けてきたが、米価の下落や麦・大豆等転作作物による連作障害が発生し、栽培品目の変更が必要になってきた。</p> <p>このことから、全国的な共働き・単身世帯の増加などによる加工業務用野菜の需要増加を見込んで、加工業務用野菜に特化した産地形成を行い、安定的な収入源としてキャベツやナバナ等秋冬野菜の栽培に取り組んできた。</p> <p>しかし、生産者の高齢化に伴う生産規模の縮小や離農により、販売額は一進一退の状況であり、大幅な生産規模の拡大産地形成には至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○部会組織目標の明確化 ○高品質・高単価なキャベツの生産 ○機械化体系の導入 ○未選別コンテナ出荷 ○生産者の経営安定化 	<p>会員数 10者</p> <p>関係機関を含めた支援・連携体制づくり</p> <p>栽培技術研究会の開催および先進地視察 1→5回</p> <p>新技術の導入試験 40ha</p> <p>会員相互の情報交換(ほ場巡回など)</p> <p>経営の安定化</p> <p>後継者づくり</p>	H30.4
伊勢	玉城町	農事組合法人 茶屋	(農)茶屋の農作物安定多収の取組	<p>本地域では、古くから稲作の共同作業が活発に行われる習慣が根付いていることから、平成2年に営農組合が発足し、転作対策として積極的に麦作を行うなどの活動を始め、その後平成14年に法人経営に移行した。</p> <p>しかし、近年農地委託者の増加により、法人の経営面積が増大していく一方で、活動に参加する人は年々高齢化してきており、法人の後継者問題が顕在化し始めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○農作物の安定多収および農地の生産力の維持・向上に向けた土づくり 	<p>小麦の反収 4俵以上</p> <p>土壌調査</p> <p>土壌改良を含めた施肥の検討</p>	<p>発展</p> <p>H30.8</p>
伊勢	志摩市	南勢志摩さとうきび振興企業組合	耕作放棄地を活用したさとうきび生産・加工の取組み	<p>本地域では、稲作を基幹作物として、温暖な気象条件を活かしていちご・メロン・ミニトマト・ストック等施設園芸やタマネギ・さとうきび等露地野菜との複合経営とともに、酪農・養豚・養鶏の専門的経営など、多様な農業経営が行われている。</p> <p>なお、さとうきびは、一度苗を定植すると7年間は刈取り収穫後の植え替えをする必要がなく、栽培中も手間がかからないため、農業生産者の高齢化や担い手不足による耕作放棄地が増加している中で、多品目との複合経営が可能な作物である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○耕作放棄地を活用したさとうきびの栽培 ○さとうきび加工品の販売 	<p>さとうきび栽培の体験実施 1回以上/年</p> <p>PRリーフレットの作成 1,000部/種</p> <p>さとうきびジュース等加工品の販売 2種類</p>	H30.10

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊勢	伊勢市	JA伊勢 洋花部会	次代を見据えた洋花産地の持続的な経営発展	<p>本地域では、恵まれた環境を活かして水稻や施設トマト、青ねぎをはじめ、バラやガーベラ、トルコギキョウ、キクなどの切花栽培が古くから盛んに行われており、切花は県を代表する産地となっている。</p> <p>その一方で、近年農業従事者の高齢化による空ハウスの増加や生産コストの上昇による経営圧迫、流行の変遷が早いことによるニーズ把握の困難などが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次代を担う青年農業者の確保・育成 ○生産体制の強化 ○新規品目の導入等による所得向上 ○生産環境等の改善による生産性向上 ○戦略的なプロモーション活動 ○花生活動の充実による伊勢洋花のファンづくり 	<p>空ハウス等情報の収集・集積 新規就農者の育成 収量・品質の向上 収益性の高い新規品目の導入 季節品目の開拓・推進 GAP認証適合基準に基づく生産管理手法の導入 イベント・教室の開催 SNSを活用した情報発信 花育活動</p>	H30.12
伊勢	志摩市	JA鳥羽志摩 紅茶生産者グループ	幻の“鶴方紅茶”復活プロジェクト	<p>本地域は、明治から昭和にかけて紅茶の一大産地であり、全国的な品評会で最優秀賞を受賞するなど高品質な国産紅茶産地として有名であった。</p> <p>その後、外国産紅茶の輸入自由化により、安い紅茶が出回ると価格が下落し、本地域でも緑茶への転換が図られ、紅茶生産は衰退してしまった。</p> <p>しかし、近年の調査で、現在でも紅茶好適品種の園地が残っていることが確認されたため、眠っていた地域資源としての活用が期待されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○茶樹の改植による紅茶品種の増加 ○製品品質の維持・向上 ○地域ブランド「鶴方紅茶」の確立 	<p>苗木の確保および樹の改植 10a 紅茶製造技術の確立 地域ブランド商品づくり 地元観光業とのタイアップによるイメージ向上・PR</p>	H31.2
伊勢	鳥羽市、志摩市	JA鳥羽志摩 in ショップ部会	安全・安心な野菜の供給拡大とそれに伴う生産者の意識レベルのさらなる向上	<p>本地域では、イチゴやオクラ、早場米、ストックの生産等温暖な立地を活かした特色ある農業が展開され、中でも南張メロンやきんこは、特産品として市場や消費者から高く評価されている。</p> <p>その一方で、平地が少なく、優良な農地が限られているため、従来の市場出荷型の産地形成が困難なことや、高齢化に伴う農業生産意欲の減退による遊休農地の増加、その他イノシシ・鹿・猿などによる獣害被害の増加が懸念されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○さらなる生産量の拡大と安定供給のための栽培技術の向上 	<p>栽培管理の振り返り 売上の増加 前年度対比5%増 栽培講習会の開催 土壌診断 地域資源を活用した施肥体系の構築</p>	発展 H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊賀	伊賀市	種生区活性化計画推進委員会	種生区活性化推進計画に基づく地域の活性化	本地区には、ホテルの名所や都市部住民との交流拠点「伊賀市あおやまハーモニーフォレスト」、兼好塚等歴史的な遺産、種生祭り等伝統行事など、古き良き歴史や資源が豊富に残っている。 しかし、近年高齢化の進行が顕著であることから、地域内住民だけではふるさとの歴史や文化、農村の営みを保全していくことが困難になってきている。	○地域外(企業や学校)との連携促進 ○地域内資源(農地や拠点施設)の有効活用に向けた検討 ○新たな主生産品目の選定 ○地域住民の意欲向上	里山周辺の整備(CSR) 0→1か所 種生地区行事(祭り)を保全 0→1回 ほたる水路の清掃(CSR) 0→3回/年 ほたる観賞会(CSR) 0→1回 旧小学校の改修検討・実施 0→通年 農産物の試験栽培 0→1品種 研修会等の開催 1回→継続	H31.1
伊賀	伊賀市	農事組合法人 百姓工房伊賀の大地	地域特産品開発で農地と地域を守る	本地域は、農地が少ないため、小規模な兼業農家がほとんどであるが、平成16年度に直売所や集客交流施設が建設されたことを契機に、そこで販売する農産物の生産や加工品の製造に取り組む農家が増えてきた。 しかし、高齢化により耕作放棄地が年々増加していくことには変わりがないため、平成24年に本法人を設立し、直売所を兼ねた加工施設を整備するとともに、本地域の米を使った菓子加工品の新商品開発・販売事業の取組を開始した。	○米の高付加価値化(農薬不使用・化学肥料不使用による生産技術の向上) ○米・米粉商品の販売促進 ○地域内組織との連携推進 ○後継者の育成 ○地域への集客 ○次世代への地域魅力発信	技術向上に向けた研鑽 販路開拓・商談会などへの参加 商品パッケージなどの改善 地域内関係者・組織との栽培・商品開発 新規就農者の受入れ 食育・農業体験イベントの開催 集客スペースの整備 小中学校での食農教育の実施	H31.2
伊賀	名張市	赤目地区稲作品質向上委員会	赤目地区における水稻高品質安定栽培への取り組み	本地区は、良食味米として知られる伊賀米の産地であり、地域農業は水田作が中心である。 また、「コシヒカリ」の特別栽培を実施する本委員会が設置されており、地域活性化の足掛かりとなっているが、近年生産者の高齢化が進行し、後継者および技術の伝承が課題のひとつになっている。その他、近年の夏季高温は品質低下に、低日照は収量低下に繋がっていることから、異常気象に耐えうる品質・収量確保も課題に挙げられる。	○若手生産者の確保 ○稲作栽培技術・経営技術の相互研究 ○生産性の向上・改善および農業所得の向上	土壌診断 1回/年 技術研修会・後継者検討会の開催 3回/年 反省会の開催 1回/年	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊賀	名張市	黒田地区環境保全会	黒田地区の農地、自然、環境を次世代へ継承するための取り組み	本地区は、豊富な水を利用した良質米の産地であり、古くから伊賀米産地の一翼を担ってきた。しかし、近年農業者の高齢化が進み、今後管理が行き届かない農地が増える可能性があることから、平成24年度に地区内の農地や環境を保全することを目的に本会を結成した。今後も本会や区が中心となり、地区内の農地を安心して次世代に継承できる仕組みを作っていく必要がある。	○農地として活用される仕組みづくり	黒田草刈隊の発足 「黒田のしきたり」の明確化 農地委託方法の明確化 耕作放棄地の抑制・解消 野菜類の栽培や農業体験活動の実施などによる農地有効活用方法の模索	
伊賀	伊賀市	JALいがほくぶぶどう部会	JALいがほくぶぶどう部会の生産及び販売改善	本地域は、内陸盆地特有の気象条件で、寒暖差が大きく、降水量は比較的少ないことから、ぶどうを含めた果樹栽培に適している。このことから、本部会ではぶどう栽培品種の向上や販売強化に取り組んでおり、近年新たに導入した種なしぶどう「シャインマスカット」は品質が向上しており、消費者から求められるぶどうを生産できるようになった。しかし、現在種なし栽培で生産しているぶどうは少なく、消費者ニーズに応えるためには、さらに種なしぶどうの生産を増やす必要がある。	○種なしぶどう生産の推進 ○販売改善 ○産地維持	高品質な種なしぶどうの生産 優良な種なし品種の導入 1件 出荷資材の改善 2件 市場との情報交換および消費者ニーズとのマッチング 初心者・若手農家の学ぶ場づくり 2回/年 園地状況の把握・整理および環境整備 園地マップの作成	発展 H30.3
尾鷲	尾鷲市	三木里野菜塾	誰もがやる気と生きがいを持って働ける地域づくりと地域資源を活かした地域活性化	近隣集落と比較して耕地面積が多く、半農半漁の恵まれた地区であったが、農地の大半が傾斜地に拓かれており、ほ場は区画が小さく未整備であることから、自家消費を主とした高齢者や兼業農家による露地栽培の小規模な作付けが中心で、農作業の機械化などによる省力化や集約化が立ち遅れている状況である。なお、本団体は就労継続支援A型事業所と地区内農業者で構成されており、空き家を改修した農産物加工施設で釜炒り茶やこんにやく、干し芋の加工・製造や、周辺地域団体と連携して年に1回収穫祭を開催している。	○地域で協力した獣害対策 ○直売所・移動販売の見直し ○農業体験などのイベント開催 ○地域おこし協力隊との連携	侵入防止柵の設置 地域ぐるみでの草刈り・追い払い 直売所の集客数・売上増加 3,211人→5,000人 収穫祭の開催 1回/年 収穫体験・朝市等交流イベントの開催 キッチンカーによる野菜販売・地域内外でのPR	H31.3

地域活性化プラン一覧（平成30年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
熊野	御浜町	株式会社 かきうち農園	「年中みかんのとれる町」御浜町で挑戦するかきうち農園の地域活性化プラン	<p>本地域では、約15種類の柑橘類の生産・販売および加工事業に取り組んでいる。なお、品種の特性に合わせた適地適作を実践し、樹上で完熟させて収穫する適熟収穫を採用しており、注文を受けてから収穫するもぎたて出荷で、品質と食味が顧客から高い評価を受けている。</p> <p>その一方で、少子高齢化による担い手不足や産地間競争の激化、多様な嗜好品による柑橘需要の低下などにより、産地規模の縮小や優良農地の荒廃が大きな課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○品質（優品率）および生産・販売量の向上 ○経営安定 ○加工品のラインアップ充実 ○販路拡大（海外展開） 	<p>栽培面積の拡大 12ha→13ha 総販売高の向上 10% 野菜部門の導入・拡大 加工品のラインアップ充実 3品目→5品目 海外輸出（ジュース）100c/s</p>	H31.3
熊野	御浜町	有限会社 すきもと農園	すきもと農園の経営安定と三重県東紀州地域の産地ブランド確立	<p>本地域は温暖多雨地帯であることから、柑橘栽培が盛んであり、主力品目である極早生温州の出荷時期は平年9月中旬と国内でもトップをきって出荷されるとともに、周年出荷産地でもある。</p> <p>しかし、近年では甘夏のような酸味の強い柑橘は敬遠される傾向がある他、若者を中心に生果離れが進み、柑橘の消費が年々減少している。また、果樹栽培農家においも、後継者不足で年々荒廃した休耕地が増加しており、今後10年先にはみかんの産地から消えるのではないかと危惧している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○果実品質・収量性の向上 ○コスト削減 ○流通改善および単価の向上 ○ASIA-GAPによる海外輸出の拡大 	<p>営農技術の向上 反収・秀品率の向上 2.2t→2.6t、50%→65% 従業員意識改革によるモチベーションアップ 収穫・防除・施肥コストの削減 20%、30%、20%削減 自社ブランドの確立・維持 加工品の拡大 ASIA-GAP認証取得による販路拡大 輸出向け商品の品質管理・安定供給</p>	発展 H31.3

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農業基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122